

## 九州地方整備局長からの弁明書に対する反論書－１および、同－２への追加 １

(2015年1月15日)

本書は、2014年12月15日付けで提出した「九州地方整備局長からの弁明書に対する反論書－１」の2ページ6行目からの「第1 事業認定審査以前の問題 2 受益予定住民から事業実施の要望がないことについて」で記した事項、および、「九州地方整備局長からの弁明書に対する反論書－２」の12ページ9行目からの「第4 利水目的 2 生活用原単位」で記した事項について、石木ダム受益予定者とされている佐世保市民から寄せられた報告を追加するものである。

# 1 : 「九州地方整備局長からの弁明書に対する反論書ー1」の2ページ6行目からの「第1 事業認定審査以前の問題 2 受益予定住民から事業実施の要望がないことについて」への佐世保市民からの報告

「石木ダム建設促進佐世保市民の会」について

佐世保市潮見町在住 松本智恵美

認定庁は弁明書の中で「石木ダム建設促進佐世保市民の会は、佐世保市の29の主たる団体で構成され活動を行っている」として市民団体として認め、その団体が望んでいる石木ダム建設の早期完成が市民の要望であると判断しているようだが、それは実態把握が十分ではないからだと思われる。ここにあらためて、同団体についての説明を加えたい。

## 事務局

平成1年1月20日に発足した「石木ダム建設促進佐世保市民の会」は、発足当初、その事務局は水道局総務課に置かれていた。一時期「水道局水源対策室」に置かれたこともあったが、平成19年度からは水道局内ではなく、市長部局の市企画調整課に置かれている。なぜ市民団体の事務局が市役所内に置かれているのか？私たちは理解できない。

## 運営費

発足当初は町内会・企業・佐世保市から集めた寄付金で賄っていたが、平成8年以降は市の助成金のみで運営している。

H8～21年は150万円、H22年は130万円、H23年以降は毎年100万円の助成を受けている。

その主な使途は広告料（市営バスと西肥バスの車体広告36万円×2=72万円）と陳情活動の交通費などである。

## 主な活動

広告手配などは事務局（市の職員）がおこない、陳情活動は会長などごく一部の理事のみ。

同市民の会の会員のほとんどは何も活動などしていない。

毎年9月6日の「水を大切にする日」におこなわれる石木ダム建設促進パレードへの動員参加がある程度。この促進パレードは平成7年以降ほぼ毎年おこなわれているが、平成25年と26年はやらなかった。何故か？25年のその日は事業認定告示の日であり、26年のその日は収用裁決申請の翌日で、両日とも市や水道局は議会やマスコミへの対応に追われていた。パレードをする余裕などなかった。

本当に市民団体が主催していたならば喜んでパレードをしたはずである。なぜなら、25年は石木ダムの必要性について国のお墨付きをもらった日だし、26年はいよいよダム反対派の土地を取得する手続きに入ったのだから、促進市民の会にとっては例年以上に派手なパレードをしてダム建設への弾みをつけたいはず。それを何もしないのは、同会がそれほどダムを望んでいないのか、すべて市が主導しているからなのか。私は多分、その両方だと思っている。

## 石木ダム建設促進決起集会

H21年1月27日、アルカス SASEBO に2000人以上が参加して石木ダム建設促進決起集会が開催された。そのとき市は職員の2割に動員をかけたことで多くの市民の批判を受けた。それは平日の午後2時から4時までの開催で、職員の会場への移動時間を考慮すると、当日の午後からの通常業務に大きな支障をきたすことは必至だったからだ。

H24年8月28日、再び石木ダム建設促進大会が開催されることになった。会場は前回と同じだが、今回は18:30~19:30という時間帯で勤務時間外。安心して動員をかけようということか。それだけではなく、市役所各部へ関係団体に声かけして参加者を集めるよう指令が出されたのである。7月23日付、佐世保市企画部長名で配布された「石木ダム建設促進大会開催に伴う各部か関係団体等の把握について（照会）」との文書がそれである。実際の担当者は政策経営課の2人の名前が書かれている。

「これまで以上に佐世保市民の機運を盛り上げ、建設に向けた熱意を示すため…」開催すると位置づけ、「より多くの市民並びに事業所の方々から参加していただきたいと思いますので、各課において関係する機関・団体並びに大規模事業所に対して」要請可能人数や連絡先を、各部局でとりまとめて政策経営課まで回答するようにとの内容であった。そして、その関係団体の例として、「海上自衛隊総監部」「自衛隊協力会」「長崎県立大学」「SSK」などが書かれていた。企業であろうが、国家公務員であろうがおかまいなし。とにかく佐世保市に籍を置くものには片っ端から声をかけて動員させようとしていたのだろう。

しかし、結局この大会は実施されず中止になった。そして、例年通り9月6日の「水を大切にする日に例年通りの集会と促進パレードが催された。なぜ中止になったのか？理由はわからないままだったが、あれほど市が動員をかけても人数が集まらなかったのではないか？との憶測も流れていた。

平成24年7月23日

各部かい長 様

企画部長

石木ダム建設促進大会開催に伴う  
各部かい関係団体等の把握について（照会）

日頃より企画行政の推進についてご協力いただきありがとうございます。

さて、7月20日の定例部長会でご説明しましたとおり、石木ダムの建設については、国の再検証の結果、事業継続とする対応方針が発表されたことをうけ、本市としてもダム建設に向けた重要な局面を迎えたと判断しております。

そのため、これまで以上に佐世保市民の機運を盛り上げ、建設に向けた熱意を示すため、8月28日（火）に石木ダム建設促進佐世保市民の会と共催で石木ダム建設促進大会を開催すべく、準備をしているところです。

つきましては、より多くの市民並びに事業所の方々から参加していただきたいと思っておりますので、各部局において関係する機関・団体並びに大規模事業所に対して、下記のとおりご回答いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1 大会概要

大会名 「石木ダム建設促進大会 ～うるおう水で 暮らしの安心、明るい未来～  
日 時 平成24年8月28日（火）18：30～19：30  
場 所 アルカスSASEBO（大ホール）  
主 催 佐世保市、石木ダム建設促進佐世保市民の会

2 回答方法

各課において関係ある団体並びに事業所の状況を別紙「関係団体回答票」に記入していただき、各部局とりまとめの上、メールにて政策経営課までご回答願います。

関係ある団体並びに事業所に特段の定義は設けていませんので、なるべく多くの団体等を回答いただければ幸いです。

3 回答期限

平成24年7月27日（金）までをお願いします。

以 上

（政策経営課）

担当：小嶋・中尾

内線：2773～2775

各部局における関係団体一覧表(平成24年7月1日現在) ●●●部

(注)数字は全て半角でお願いします。

団体・事業所には国の機関や協力団体、教育機関、企業等広く捉えてください。(例:海上自衛隊總監部、自衛隊協力会、長崎県立大学、SSK)

要請可能人数はわかる範囲で記入をお願いします。

回答の際には表題並びにシート名の●●●に部局名の入力をお願いします。

No.	団体名	代表者		〒 (半角)	住所	会員数	要請 可能 人数	担当課	担当者	内線
		役職	代表名							
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										

2 : 「九州地方整備局長からの弁明書に対する反論書－2」の12 ページ9 行目からの「第4 利水目的 2 生活用原単位」で記した事項について」への佐世保市民からの報告

私たち佐世保市民は水使用を我慢してはいない

佐世保市潮見町在住 松本智恵美

起業者である佐世保市は、「生活用原単位が他都市に比べて著しく低い。市民は水使用について受任限界を超えて我慢している」と述べているが、当の私たち市民はそのように思っていない。何故そのように判断されるのか、根拠も示さず決めつけられるのは納得できない。

確かに平成6～7年の大渇水の時には誰もが水に不自由したが、当時は西日本全域の多くの市民がそのような辛い我慢を強いられており、佐世保市民だけの経験ではなかった。

あれから20年、私たちは一度も断水を経験していない。2回だけ減圧給水はあったが、日常生活において何も不自由はしなかった。昨年のような猛暑の夏も十分水を使って生活していた。

市は机上の数値だけを見て、佐世保市民の一日生活用水使用量が少ない＝市民は水使用を我慢していると主張するが、私は実際我慢などしていない。私の友人やそのまた友人たちの家の水道使用量は我が家より格段に少ないが、彼らの家には井戸があり、その井戸水で庭の散水や洗車をしている。市街地にある肉屋さんの傍にも地下水が湧き出しているところがあり、その水は洗い物に利用しているとのことだった。

佐世保市は県内で溜池がダントツに多い地域だが、もしかしたら井戸も多いのかもしれない。そう思って情報公開請求してみたが、資料がないということで非開示であった。なぜ市は井戸について調査しようとならないのか。不思議である。

また、高齢の女性の多くはもったいないという意識が強くて、お風呂の残り湯を洗濯や掃除に使っている。しかし、それは彼女たちにとっては当然のことで、我慢しているという意識はない。それを知ったのは、平成21年12月のことだった。

実は私たちも佐世保市の水事情には関心があったので市民有志で「水のシンポジウム」を開催したことがあり、そのときの来場者や街頭でも市民に呼びかけてアンケートに協力をしてもらった。113人の回答者から得られた結果は次のようなものであった。

- ① 節水を心がけている (47.79%)
- ② 水道料金が気になる (86.73%)
- ③ 節水することに不自由を感じる (10.62%)
- ④ 水道料金節約のための節水は苦にならない (77.88%)
- ⑤ 水道水の他に利用している水がある (36.28%)  
(あると答えた人の27.45%が井戸水、43.14%が雨水、13.73%が湧水を使っていた)

ここで見えてくるのは、節水意識の高さ、節水している人の多さ（約 5 割）であり、節水の要因の一つは水道料金を低く抑えたいとの思いであり、そのための節水は苦にならないと約 8 割の人が答えている。また、水道水以外の水を 3 割以上の人が活用していたのも驚きであった。

もちろん、この傾向が佐世保市全体を示しているとは私も思っていない。水問題や節水意識の高い人々がアンケートに答えてくれた可能性が大いにあると思っている。しかし、全体像ではないにしても、このような市民の存在は事実であり、そこに市は目を向けるべきではないだろうか。市民は我慢していると決めつけて、ダムを造って水をもっとじゃんじゃん使わせようとしても、ダム建設により水道料金が上がれば市民の節水意識はますます高まり水需要も料金収入もさらに減少の一途を辿るだろう。

市はもっと市民と対話して、水使用の実態に即した水受給計画と対策を考えてもらいたい。この時おこなったアンケートでは、石木ダムは「あったほうがよい」7.08%、「なくてもよい」75.22%であったことを付け加えておく。